

## CT 検査における医療安全……どうする？

### 座長集約

山形大学医学部附属病院 保吉 和貴

山形県立中央病院 荒木 隆博

現代医療において欠かせないモダリティである CT 検査は、造影剤の副作用や血管外漏出をはじめとして、放射線部門のなかでも医療安全にかかわる事象が発生しやすい検査である。そのため、安全な運用は放射線診療を行う上で重要な課題である。本シンポジウムでは、造影剤使用時のリスク管理、タスクシフトの実例、安全文化の醸成など、現在の CT 検査における医療安全について多角的に議論することを目的として行われた。

はじめに、青森県立中央病院の對馬真貴子氏より、「CT 室における造影 CT に伴う医療安全の再考 ～看護師の視点より～」と題し、看護師の立場から見た造影 CT における安全対策について講演が行われた。穿刺時のリスク管理、患者対応におけるチーム連携のあり方など、初学者から管理者まで参考になる多くの示唆が得られた。続いて、青森市民病院の横山幸夫氏からは、「タスクシフトを意識した運用と実例」と題し、穿刺のタスクシフト運用開始までの経緯と、その過程で見えた課題と改善への工夫が紹介された。限られた人員の中で安全性と効率を両立させるための仕組みづくりや、職種間連携の実践的な課題解決法などが共有された。最後に、岩手医科大学附属病

院の千葉工弥氏が登壇し、「いつもの CT 検査をもつと安全に：私たちのベスト気楽ティスな取組み」と題して、CT 部門における医療安全体制の構築とリスクマネジメントの具体的手法について講演した。造影剤に関連するリスク以外にも、患者・医療者双方の満足度を向上する取り組みが多数紹介され、参加者からも高い関心が寄せられた。

最後の総合ディスカッションでは、座長進行のもと各講演の要点を踏まえながら、医療安全を意識した CT 検査部門の運用と、タスクシフトを進めるにあたっての現在の課題について話し合われた。聴衆からの質問も多く寄せられ、活発な意見交換が行われた。本シンポジウムを通じて、参加者一人ひとりの医療安全への意識を高める契機となる有意義なセッションであった。

本シンポジウムでは、造影 CT に伴うリスクへの理解を深めるとともに、タスクシフトへ向けた現在の課題が共有された。活発な質疑応答や意見交換を通して、参加者間で多くの実践的示唆が得られた。これらの議論が、各施設における医療安全対策のさらなる発展につながることを期待される。